

石油はこの世から  
なくなってしまう。はっきりゆうて  
原発反対なんて言ってる  
場合じゃないんや

『専務 島耕作』2巻より



弘兼史



荻野  
アンナ



アントニオ  
猪木



茂木  
健一郎

## 電力会社に群がった

# 原発文化人 25人への 論告求刑

各電力会社や関連団体は、原発の「安全性」やイメージ向上を図るため、多くの著名人をPRに用いてきた。原発推進の一翼を担ってきた彼ら彼女らを佐高信が斬る。

## 佐高 信

さたか まこと 本誌編集委員。

画/いわほり けん

東京電力をリーダーとする電気事業連合会（電事連）がいかに巨額のカネを使って世論を買い占めてきたか、そして、その手先となってノーテンキなタレントや文化人が原発安全神話を鼓吹してきたか。それを糾弾するために、まず、二つの事例を紹介する。

一つはアントニオ猪木の青森県知事選挙応援事件である。猪木の秘書だった佐藤久美子の「議員秘書 捨身の告白」（講談社）によれば、最初、原発一時凍結派の候補から一五〇万円来てほしいと頼まれた猪木はその候補の応援に行くつもりだったが、推進派のバックにいた電事連から一億円を提示され、あわてて一五〇万円を返して、そちらに乗り換えたというのである。

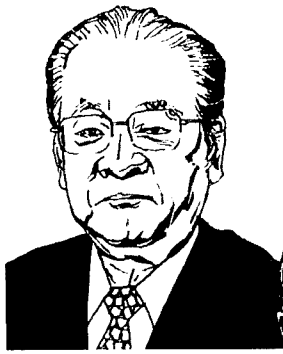
まさに札幌で頬を叩くこうしたやり方は、高木仁三郎のような筋金入りの反対派にさえ試みられ

る。

高木の『市民科学者として生きる』（岩波新書）に、ある原子力情報誌の編集長から、三億円を用意してもらったので、エネルギー政策の研究会を主宰してほしいと誘いがあったと書かれている。三億円について、高木は「現在だったら一〇〇億円くらいに相当しようか」と注釈をつけているが、猪木の一億円もいまでは何倍かする必要はあるだろう。

## 安全神話のホラ吹き役

電力会社の広告に協力した作家の幸田真音を批判したら、自分はそのようなもっていないと弁解してきた。そして、中立的な立場からエネルギーについての小説を書くため広告に出たのだと言いつけてきたが、協力しても「中立的に」書けると思っただけの鈍感さ故に利用されるのだ。竹中平



堀屋 太一



大前 研一

放射性物質が怖い  
と思われていることに  
問題がある

「朝まで生テレビ」(2011年3月26日放送より)



勝間 和代



養老 孟司

三月末の「朝まで生テレビ」で、震災より原発事故のニュースが多すぎるのではと発言して問題となった勝間和代も中部電力のCMに出ている。化粧の皮が剥がれたという感じだが、こうした最近の原発タレントより罪深いのは、大前研一や堀屋太一、あるいはピートたけし(北野武)といっ

たけしのトンデモ暴言  
安全神話の最大のホラ吹き役が漫画家の弘兼憲史。脳科学者として売り出した茂木健一郎や養老孟司がこれに次ぐ。養老など、「バカの壁」というベストセラーを出したが、自分自身が最大の「バカの壁」ではないのか。弘兼は三月一九日付の『夕刊フジ』に例の島耕作のイラストを描き、被災者と福島原発で作業にあたる人に対して「大変な状況ですが負けずに乗り切ってください」というメッセージを寄せていた。しかし、原発は安全と喧伝してきた弘兼の「応援」など、特に福島原発からの避難者にとっては吐き気をもよおすものではないだろう。「社長 島耕作」の無責任さは、まさに東京電力の会長や社長とダブるのである。

蔵の引きなのか、彼女はNHK(日本放送協会)の経営委員にもなっている。無思想の作家は電力会社にとってもお飾りの使い勝手がいいのである。彼女や荻野アノを含む「原発おばさん」や「原発おじさん」は原発反対派がどんな嫌がらせを受けてきたかなど想像もできない。評論家の西部邁は、一度、電力会社主催のシンポジウムに呼ばれて、科学的に絶対の安全はないと言ったら、二度と声がかからなくなったと笑っていた。つまり、何度も招かれる原発タレント文人は「絶対安全」派と見られているのである。主観的に「中立」などと言っても、「頭隠して尻隠さず」ではない。

た「フロントティア」だろう。そう言えば、勝間は大前を尊敬して、いわば「おんな大前」をめざしてきたのだし、たけしの場合には兄の北野大や弟子の浅草キッドまで原発推進派である。堀屋は『週刊文春』四月七日号の立花隆との対談では、津波は「想定外」ではなかったはずだと、少し東電に批判的なことも言っているが、かつては「原発反対などと言っているのは日本だけ。たとえばフランスでは、原発反対運動はただのひとつもない」と暴言を吐いていた。立花センセイも、そんな堀屋の過去の言動を調べて突っ込むべきではなかったか。

新しい技術に対して  
『危険だ』と叫ぶ、  
オオカミ少年が  
マスコミ的には  
ウケがいい

『新潮45』2010年6月号より



北野 武

大前は日立製作所で高速増殖炉の開発に携わっていたから、単なる宣伝者ではなく実行犯である。お笑いタレントとは言え、震災による原発爆発後のいま読むと笑えないのがたけしの発言。『新潮45』の二〇一〇年六月号で、原子力委員会

後のはま読むと笑えないのがたけしの発言。『新潮45』の二〇一〇年六月号で、原子力委員会

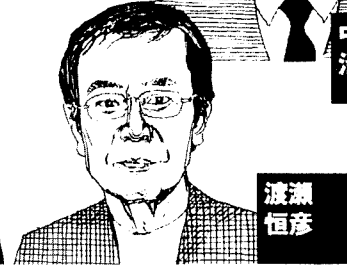


岡江 久美子

僕も時には  
熱くなる男だけど、  
地球がこれ以上  
熱くなったら  
かなわんね

「関西電力」CMより

星野 仙一



中畑 清

渡瀬 恒彦

委員長の近藤駿介（東京大名誉教授）と対談して、トンデモ暴言を連発している。

「おいらは大学も工学部ですから、原子力関係の話は大好きなんです。今日は新潟県にある柏崎刈羽原子力発電所の中を見学させてもらったんだけど、面白くて仕方がなかった」

こう切り出しただけは、こんなことを言う。

「原子力発電を批判するような人たちは、すぐに『もし地震が起きて原子炉が壊れたらどうなるんだ』とか言うじゃないですか。ということは、逆に原子力発電所としては、地震が起きてても大丈夫なように、他の施設以上に気を使っているはずだから、地震が起きたら、本当はここへ逃げるのが一番安全だったりする（笑）。でも、新しい技術に対しては『危険だ』と叫ぶ、オオカミ少年のほうがマスコミ的にはウケがいい」

本当にその方が「ウケがいい」かどうか、たけしも一度試してみればよかった。原子力発電所に逃げるのが一番安全なら、たけしはいまこそ、福島原発に逃げ込んだらいいだろう。専門家であるはずの近藤の応答もひどいが、たけしの暴走には歯止めがない。次の発言にも絶句するばかりである。「相変わらず原子力発電に反対する人もいるけど、交通事故の年間の死者の数を考えて、自動車に乗るのを止めましょうとは、言わない。やっぱり使ったほうが便利だからね。どうも原子力発電というリスクばかり言う傾向があるけれど、実際、おいらたちはもつとリスクのある社会に生きている。変質者に刺される確率のほうがよほど高いって（笑）」

突如ふえた公共広告機構、いわゆるACCのCMにアントニオ猪木が登場して、誤った情報に惑わされないようにしようと呼びかけているのには驚いた。嗅覚だけは発達しているたけしも、早晚、方向転換して、そんなこと言ったっけという顔を

するのだろうか。

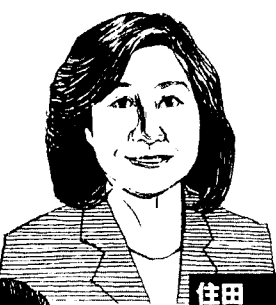
### 売る芸がないから身を売る

福島出身で東電のCMに出ていた中畑清が、東電に裏切られたと言っているのにも嘔吐してしまっただが、渡瀬恒彦や星野仙一、あるいは森山良子や岡江久美子といったタレントや野球選手と違って、「行列のできる法律相談所」に出ている北村晴男や住田裕子といった弁護士や吉村作治などの大学教授、そして、御意見番を気取る三宅久之、草野仁、大宅映子、キャスターを名乗る木場弘子の罪は一段と重い。投資相談屋の藤沢久美は『文藝春秋』で何度も電事連の広告を出ていながら、原発への「コメントは差し控える」のだという。

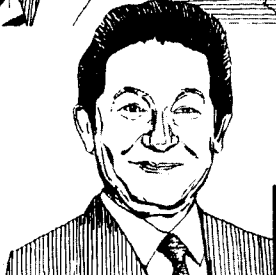
「芸は売っても身は売らぬ」が世評の心意気とされた時代があったが、ここに挙げた「原発芸者」たちは、売る芸がなかったから身を売ったのか。恥知らずな者どもである。



三宅 久之



住田 裕子



草野 仁

# 緊急アンケート

下記2点の質問を実施。回答は以下の通り。

- Q1.** 東京電力福島第一原子力発電所の重大事故が発生した現在でも、原発は必要だと思いますか。必要だと思う・必要だと思わない
- Q2.** 項目1でお答えになった理由をお書きください。(200字程度に要約)

人名	Q1	Q2
浅草キッド	無回答	無回答
アントニオ猪木	無回答	無回答
荻野アンナ	私は「『必要だと思う』人と『必要だと思わない』人で議論して、国民投票すべきだ」と思う人です。	震災の深刻さを全存在で受け止めています。人間に「絶対」は無いが、限りなく絶対に近い安全はこれまで実現しています。核に関しては、フランスは情報の透明性と堅固なシステム(細部はゆるい)で重大事故を避けてきました。日本は細部の完璧さに対して、システムが弱い(省庁間の縦割り、製造部門と検査部門の未分化)と思い知らされてきました。改善を目指すのか、核を捨てるのか。○×ではなく哲学の問題。日本の文化と生活に即して選びたいものです。
大前研一	無回答	無回答
大宅映子	どちらともいえない。豊かさのレベルをどこにおくかで必要or不必要がさまるから。	1/3の豊かさを捨てる覚悟があれば必要ではない。電気はがんがん使いたいけど、原発はいや!という選択肢はないと思う。もともと廃棄物処理の解決がないまま導入してしまった欠陥商品である原発。既にあるものを破壊してまでやめるのは現実的ではない。が、どンドン建設せよ、という推進派でもない。これ以上依存しないためにはライフスタイルを根本から変えねば!というのが、私の立場でした。
岡江久美子	こういったことにお答えするのは難しい(電話にて回答)	
勝間和代	無回答	無回答
北野武	無回答	無回答
北野大	無回答	無回答
北村晴男	必要だと思う。但し、技術革新によって、太陽熱発電等のグリーンかつ低リスクの発電方法で電力需要を賄えるようになれば、不要となる。なお、間もなく到来する電気自動車の時代には、電力需要はさらに莫大となるので、上記の技術革新に資本を集中的に投下すべきである。	現時点の選択肢は火力が原子力のみ。火力は①平常時に温室効果ガスを大量に排出し地球環境に深刻な影響を与え続け、②燃料の輸入が止まれば生活も経済もストップするという意味でエネルギー安全保障上重大な欠陥を抱えている。原子力は、平常時はグリーンでエネルギー安全保障上も問題無いが、事故時の対応如何では大災害が起こりうる。そこで、原子力の安全性確保に世界の英知を結集しつつ、両者をバランス良く活用すべきと考える。
木場弘子	無回答	無回答
幸田真音	無回答	無回答
草野仁	安定的に供給可能な代替エネルギー施設が完備されるまでは必要だと思います。	今すぐに国内全ての原発を停止して、他のエネルギーで国民の生活や経済活動のために十分に電力を供給できるような選択肢があれば、それは現実的な対応であるが、残念ながら代替案が確立していない現状では「必要だと思わない」とは言えないと思います。
堺屋太一	どうい雑誌かわからないところに返事は出せない(電話にて回答) ※本誌を発送したところ、アンケートに答える時間がないとのこと(電話にて回答)	
住田裕子	出張中のため答えられない(電話にて回答)	
中畑清	無回答	無回答
弘兼憲史	残念ながら必要だと思う	現時点では現実問題として即座に廃止することは出来ないから。日本中が計画停電になると日本経済は沈没します。ただし、今後これ以上作らず、段階的に廃止することには賛成。
藤沢久美	原発についてのコメントは差し控える(電話にて回答)	
星野仙一	無回答	無回答
三宅久之	必要だと思う	増大する電力需要とCO <sub>2</sub> 規制強化という相反する命題解決の方途として、安全性を確認しつつ原発に依存する、これ以外の方法があるのか。
茂木健一郎	無回答	無回答
森山良子	ツアー中のため回答できない(電話にて回答)	
養老孟司	無回答	無回答
吉村作治	無回答	無回答
渡瀬恒彦	来月中旬まで撮影で京都にいるため回答できない(電話にて回答)	

千原せいじ	・2010年「エネルギー・トーク・ライブ in東京」に登壇
浅越ゴエ	・2010年「エネルギー・トーク・ライブ in東京」に登壇 ・2010年「エネルギー・トーク・ライブ in広島」に登壇
朝岡聡	・2010年「エネルギー・トーク・ライブ in名古屋」の司会
矢野きよ美	・2010年「エネルギー・トーク・ライブ in名古屋」に登壇
森永卓郎	・2010年「エネルギー・トーク・ライブ in名古屋」に登壇
COWCOW多田	・2010年「エネルギー・トーク・ライブ in名古屋」に登壇
COWCOW山田	・2010年「エネルギー・トーク・ライブ in名古屋」に登壇
草野仁	・2010年「エネルギー・トーク・ライブ in大阪」の司会
三宅久之	・2010年「エネルギー・トーク・ライブ in大阪」に登壇
未知やすえ	・2010年「エネルギー・トーク・ライブ in大阪」に登壇
バンクブー	・2010年「エネルギー・トーク・ライブ in福岡」に登壇
黒瀬	・2010年「エネルギー・トーク・ライブ in大阪」に登壇
バンクブー	・2010年「エネルギー・トーク・ライブ in福岡」に登壇
佐藤	・2010年「エネルギー・トーク・ライブ in大阪」に登壇
住田裕子	・2010年「エネルギー・トーク・ライブ in福岡」に登壇
村仲ともみ	・2010年「エネルギー・トーク・ライブ in福岡」に登壇
金美齡	・2010年「エネルギー・トーク・ライブ in仙台」に登壇
博多華丸	・2010年「エネルギー・トーク・ライブ in仙台」に登壇
博多大吉	・2010年「エネルギー・トーク・ライブ in仙台」に登壇
ワッキー貝山	・2010年「エネルギー・トーク・ライブ in仙台」に登壇
竹内薫	・2010年「エネルギー・トーク・ライブ in広島」に登壇
月亭八光	・2010年「エネルギー・トーク・ライブ in広島」に登壇
緒形かな子	・2010年「エネルギー・トーク・ライブ in広島」に登壇
田畑藤本	・2010年「エネルギー・トーク・ライブ in広島」に登壇
木佐彩子	・推進ビデオ・DVD出演「野口健と考える エネルギーの未来と地層処分 ～次世代のために、いま、取り組むべきこと～」
野口健	・推進ビデオ・DVD出演「野口健と考える エネルギーの未来と地層処分 ～次世代のために、いま、取り組むべきこと～」

<b>電源開発 (J-POWER)</b>	
日南響子	・テレビCM「送電線をたどって」篇

<b>(財)日本原子力文化振興財団</b>	
山折哲雄	・『原子力文化』で連載「バクス・ヤホニカ」 ・第47回「原子力の日」記念シンポジウムで特別講演
田原総一郎	・第47回「原子力の日」記念シンポジウムの座談会「日本の原子力、その針路を考える」にコーディネーターとして登壇
ヒサクニヒコ	・『原子力文化』2010年5月号 対談「環境考古学は何を見つけたのか」
石川英輔	・『原子力文化』2010年7月号 対談「昭和時代から現在を見る」
宮部みゆき	・『原子力文化』2010年7月号 対談「昭和時代から現在を見る」
星野知子	・『原子力文化』2010年8月号 対談「秘境を旅して見えた環境」
高山文彦	・『原子力文化』2010年9月号 対談「ローカル鉄道の再生」
中島潔	・『原子力文化』2009年2月号 インタビュー ・2011年 カレンダーの画
中西輝政	・『原子力文化』2010年1月号 対談「見直し改革で真ん中にもどす」
海堂尊	・『原子力文化』2010年10月号 インタビュー
鈴木光司	・第46回「原子力の日」記念シンポジウムのパネリスト ・『原子力文化』に連載「科学はためになる」 ・『原子力文化』2009年4月号 対談「ゲノムが社会を変える」
夢枕獏	・『原子力文化』2009年6月号 対談「辺境を放する魅力」
三遊亭白鳥	・『原子力文化』2009年6月号 対談「辺境を放する魅力」
手嶋龍一	・第46回「原子力の日」記念シンポジウムのパネリスト
佐藤優	・第45回「原子力の日」記念シンポジウムのパネリスト ・『原子力文化』2008年3月号 対談「ロシアにとって魅力ある日本」
萩尾みどり	・『原子力文化』2008年8月号 対談「健康のために良い水と笑いを」
小沢遼子	・第46回「原子力の日」記念シンポジウムのコーディネーター ・『原子力文化』2008年3月号 対談「ロシアにとって魅力ある日本」 ・『原子力文化』2007年7月号 対談「規制と安全」
宮脇昭	・『原子力文化』2008年1月号 対談「樹木は二酸化炭素を削減する」
橋本大二郎	・第44回「原子力の日」記念シンポジウムのパネリスト
豊田有恒	・『原子力文化』2007年8月号と9月号に特別寄稿
森本敏	・第47回「原子力の日」記念シンポジウムのパネリスト

養老孟司	・『原子力文化』2008年5月号 対談「虫の眼から見た現代文明」
石川英輔	・『原子力文化』2008年5月号 対談「虫の眼から見た現代文明」 ・『原子力文化』に連載「江戸のホモ・サビエンス」
岸本葉子	・『原子力文化』に連載「風のように鳥のように」 ・『原子力文化』2010年2月号 対談「グリーンケアをご存知ですか」
宮尾登美子	・『原子力文化』2010年3月号 「ほうしゃせん」古今東西に登壇
イト	・『原子力文化』2010年8月号 「ほうしゃせん」古今東西に登壇

<b>電気事業連合会</b>	
豊田有恒	・『原子力発電四季報』7号(1998年10～12月号)に寄稿
高木美也子	・『原子力発電四季報』27号(2004年5月号)に寄稿
木場弘子	・『原子力発電四季報』31号(2005年7月号)に寄稿
神津カンナ	・『原子力発電四季報』39号(2007年夏号)に寄稿
荻野アンナ	・『原子力発電四季報』43号(2008年夏号)に寄稿
舞の海秀平	・『原子力発電四季報』44号(2008年秋号)に寄稿
弘兼憲史	・『原子力発電四季報』45号(2009年冬号)に寄稿
北野大	・『原子力発電四季報』48号(2009年秋号)に寄稿
茂木健一郎	・『原子力発電四季報』50号(2010年春号)に寄稿
岸本葉子	・『原子力発電四季報』51号(2010年夏号)に寄稿
草野仁	・『原子力発電四季報』53号(2011年冬号)に寄稿
藤沢久美	・『文藝春秋』に広告記事の連載「ギモンの視点」
石川好	・『原子力開発利用長期計画の策定状況について』における「長計策定会議委員」
住田裕子	・『原子力開発利用長期計画の策定状況について』における「長計策定会議委員」
橋本謙子	・『原子力開発利用長期計画の策定状況について』における「長計策定会議委員」

<b>その他</b>	
アントニオ猪木	・原子力推進活動に関わる
鈴木義司	・原子力推進活動に関わる
大前研一	・原子力推進を支持
大宅映子	・原子力推進を支持
上坂冬子	・『日本の論点』(2005年/文藝春秋)で「核燃料サイクルは不可欠な電力資源——妨害こそコストの浪費である」を寄稿
幸田真音	・『文藝春秋』2009年12月号で、連続インタビュー「社長は元気の源」。東芝社長佐々木則男「原子力で売上一兆円を目指す」
北野武	・『新潮45』2010年6月号 「達人対談」
浅草キッド	・『週刊現代』2011年3月12日号に「浅草キッドが行った!見た!聞いた!! 原子力発電最前線」掲載
弘兼憲史	・『中央公論』にて連載「弘兼憲史のエネルギーを考える」 ・『週刊モーニング』連載「専務島耕作」にて主人公がもじり見学(2007年6月7日号)
堺屋太一	・『週刊文春』2011年4月7日号

電力会社や関連団体の総計年間広告費はトヨタ自動車を軽く超える約2000億円に達するとメディアで指摘され始めている。この点、電力会社の業界団体である電気事業連合会(電事連)に問い合わせたが、電事連自身の年間広告費は口外できないと拒否、各電力会社の年間広告費も把握していないという回答だった。「電力会社はだいたい言い値で出稿してくる。行政よりもカネ払いのいい有り難いスポンサー」と、広告大手・博報堂出身の本誌「経済私考」執筆者・谷村智康氏は電力会社の特異で潤沢な広告マネーを指摘する。

本表は、各電力会社や関連団体のPRに携わった「文化人」(タレントや作家、著名人など)の一部である。彼らは原発推進を明言したり、電力会社のイメージアップに協力したりした。電力会社にとってはありがたい人たちである。

なお、旧松下電器(パナソニック)出身の漫画家・弘兼憲史氏は、『社長島耕作』5巻で、原発賛美から蓄電池賛美へと変質。パナソニックが蓄電池に注力している影響だろうか。また、作家のC.W.ニコル氏は月刊誌『創』5・6月号の佐高信氏連載コラムに掲載された原発文化人のリストに対し、「『原子力安全PRに協力』はまったくの事実誤認」と抗議している。だが、電力会社は自身のイメージ向上を図ることで原発の危険性を中和してきた。電力会社がカネを文化人に出すのは利益追求のために利用できるからではない。(編集部)

# 電力会社が利用した文化人 ブラックリスト

北海道電力	
トレイ・ヒルマン	・2006年オール電化イメージキャラクター
安田顕	・2005年「原子力発電の、こんなこと。」
ベッキー	・2007年～2008年オール電化イメージキャラクター
福島敦子	・原子力発見レポート

東北電力	
伊東四朗	・冠番組「伊東四朗のOh!千客万来」(青森テレビ)
近石真介	・冠番組「近石真介の『味のある話』」(東北放送制作、ラジオ)
森山良子	・冠番組「ふれあいネットワーク」(エフエム仙台制作)
岡村孝子	・CMのイメージ曲に「夢をあきらめないで」
大貫妙子	・CMのイメージ曲に「ピーターラビットとわたし」
忍者	・CMのイメージ曲に「瞳は未来を映してる」
河島英五(故人)	・CMのイメージ曲に「元気ですか!」
ゴスペラーズ	・CMのイメージ曲に「Armonia」
鈴木杏樹	・テレビCM オール電化シリーズに出演
児玉清	・テレビCMに出演

東京電力	
吉村作治	・プルサーマル発電推進広告に出演
草野仁	同上
中畑清	・原発のPRCMに出演
川合俊一	同上
錦野旦	・電気温水器の推進広告に出演
鈴木京香	・「Switch!シリーズ」に出演
江波杏子	同上
山根良顕	・「Switch!シリーズ・エコキュート」に出演
陳建一	・「Switch!シリーズ・IHクッキングヒーター」に出演
道場六三郎	同上
坂井宏行	同上
山田孝之	・「TEPCOひかり」に出演
井川遥	同上
滝川クリステル	・「Switch!シリーズ」に出演
本上まなみ	・「Switch!シリーズ:ファミリー編」に出演
西島秀俊	同上
濱田龍臣	同上
茂木健一郎	・TEPCOのECO対談に登場
木原実	同上
速水亨	同上
枝廣淳子	同上
さかなクン	同上
野口健	同上
新井幸人	同上
堀ちえみ	同上
花畑日尚	同上
海野和男	同上
三浦雄一郎	同上
岩崎元郎	同上
関野吉晴	同上
萩原始	同上
養老孟司	同上
田部井淳子	同上
畠山重篤	同上
松浦和男	同上
益戸育江	同上
C.W.ニコル	同上
田口ランディ	同上
東田研	同上
樋口広芳	同上
弘兼憲史	・web劇画「東田研に聞け」を作成
内田春菊	・でんこちゃんのキャラクターを提案
寺田農	・「日経ビジネス」2011年3月14日号にて、東京電力の原発推進広告記事に登場
小林麻耶	・「文藝春秋」2010年12月号に広告記事。東京電力 清水正孝社長との対談

中部電力	
北村晴男	・2010年6月放映 テレビCM「原子力だから、できることがある」[もっと話そう]篇 ・2011年2月放映 テレビCM「原子力だから、できることがある」[それぞれの立場]篇
勝間和代	・2011年2月放映 テレビCM「原子力だから、できることがある」[それぞれの立場]篇
葉丸裕英	同上
江口ともみ	・2010年6月放映 テレビCM「原子力だから、できることがある」[もっと話そう]篇
大槻義彦	同上
宮崎あおい	・2009年10月～2010年10月放映 テレビCM オール電化「ピノキオIH」篇
久石譲	・CM音楽
岡田奈々	・webドラマ「由奈のECOってHappy!」に出演
小西博之	同上

北陸電力	
貫地谷しほり	・2010年4月～ 北陸電力・北陸電力リビングサービスの共同クレジットで出演
石田ひかり	・1989年のCI導入時にCM出演
蟹瀬誠一	・原子力発電
高原兄	・2004年～2010年 エコキュート
竹仲絵里	・オール電化住宅、エコキュート
古谷徹	・CMナレーション
香坂みゆき	・『週刊デンカ.TV』に出演

関西電力	
星野仙一	・現在の企業イメージキャラクター、テレビCM「CO <sub>2</sub> 」[プルサーマル]
高橋英樹	・過去の企業イメージキャラクター
浜村淳	・主にラジオCMを担当
黒木瞳	・現在のオール電化キャンペーン「Ready?」シリーズに出演
小林聡美	・過去のオール電化キャンペーンのテレビCMに出演していた
磯部さちよ	同上
岡江久美子	同上
美山加恋	・原子力発電シリーズ
唐沢寿明	・EO光シリーズ(ケイ・オプティコム:関電グループ)
小藪千豊	・関電セキュリティ・オブ・ソサイエティ
中島みゆき	・CM音楽「40年前の決意の灯り」篇、「続々物語」篇 楽曲:「糸」
アンジュラ・アキ	・イメージCMのBGMに「手紙 ～拝啓 十五の君へ～」

中国電力	
夏川結衣	・テレビCM「地球儀の旅」篇、「オール電化エコキュートくみ」篇など
黒瀬真奈美	同上
奥華子	・CM音楽「地球儀の旅」篇

四国電力	
玉木宏	・原子力CM
佐倉絵麻	・事業紹介CM「もうひとつの顔で、もっと笑顔」篇

九州電力	
大林宣彦	・1990年代のイメージキャラクター
森高千里	・2006年からオール電化システム関連CM
カンニング竹山	・2008年～ 「やってみま省エネ」キャンペーン
王貞治	・2009年7月～ CM出演。楽曲は相川理沙の「ひかり」、「一本足」篇ほか2本
加藤幸子	・2008年～ 「やってみま省エネ」キャンペーン
相川理沙	・2009年7月～ CMソング「ひかり」提供
松本零士	・原発PRアニメを制作

原子力発電環境整備機構 (NUMO)	
渡瀬恒彦	・テレビCM ・新聞広告 ・核燃料サイクル施設見学レポート
岡江久美子	同上
田崎慎也	・広報誌『ニューモ・ノート』
福沢朗	・2010年「エネルギー・トーク・ライブ in東京」の司会 ・2010年「エネルギー・トーク・ライブ in福岡」の司会 ・2010年「エネルギー・トーク・ライブ in仙台」の司会 ・2010年「エネルギー・トーク・ライブ in広島」の司会
乾貴美子	・2010年「エネルギー・トーク・ライブ in東京」に登壇
辰巳琢郎	・2010年「エネルギー・トーク・ライブ in東京」に登壇